横浜市 麻しん流行情報 1 号

横浜市衛生研究所 ／ 横浜市健康福祉局健康安全課

麻しん患者の報告が増加しています。

- ◆ 2015 年に日本が麻しん排除国に認定されてから、海外で麻しん（はしか）に感染して国内で発病する事例は報告されていましたが、4 月以降、海外渡航歴のない感染経路不明の麻しん感染が報告され、すでに昨年を上回る報告数です。
- ◆ 麻しんは非常に感染力が強く、その予防には 2 回の予防接種が必要です。麻しん・風しん混合ワクチン（MR ワクチン）を確実に接種しましょう。
- ◆ 感染が疑われる際は、必ず医療機関に事前に電話連絡の上、マスクを着用し、公共交通機関の利用を避けて、早めに受診しましょう。

1 麻しん（はしか）とは？

感染経路は空気感染、飛沫感染や接触感染など様々で、感染力はとても強く、免疫がない人が感染するとほぼ 100%発症します。潜伏期間は 10～12 日ほどで、熱やせき、鼻水など、風邪のような症状が出て、数日すると 38℃以上の高熱と、全身の赤い発しんが出現します。肺炎や脳炎などの合併症を併発すると、時に命に関わることもあります。

熱やせきなどの症状が出現する 1 日前（発しん出現の 3～5 日前）から発しん出現後 4～5 日（または解熱後 3 日）くらいまで、周りの人に感染させる力があります。感染拡大防止のため、なるべく外出を控えるなどの行動の注意が必要です。

◆ 参考：麻しんについて（国立感染症研究所）　麻しん・風しんについて（横浜市保健所）

2 海外渡航歴のない麻しん患者（検査診断例）発生状況（市内感染症発生動向調査：2019 年 5 月 22 日現在）

	発病日	年齢	遺伝子型
1	4 月 22 日～4 月 28 日	20 歳代	B3
2		40 歳代	不明
3		10 歳代	B3
4	4 月 29 日～5 月 5 日	20 歳代	検査中
5		30 歳代	B3
6	5 月 6 日～5 月 12 日	10 歳代	B3
7		30 歳代	検査中
8		30 歳代	B3

4 月以降、海外渡航歴のない患者 8 名が報告されています。うち、衛生研究所で検査した結果、遺伝子型は 5 名が B3 型、2 名が検査中です。B3 型は、世界的に流行している遺伝子型です。

◆参考：
世界における麻しんウイルス遺伝子型の分布（WHO ホームページより抜粋）

3 予防接種について

麻しんは、予防接種法による定期予防接種の対象疾病です。現在実施している定期予防接種では、「麻しん・風しん混合ワクチン」（MR ワクチン）を 2 回接種します。

【標準的な接種期間】 1 期：1 歳以上 2 歳未満　　2 期：5 歳から 7 歳未満で小学校就学前 1 年間

◆ 参考：麻しん風しん予防接種について（横浜市保健所）

【お問い合わせ先】　横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課　TEL 045(370)9237
横浜市健康福祉局健康安全課　TEL 045(671)2463